

震災が教えてくれたお米の大切さ

仙台市立五城中学校 3年 三 浦 翔 大

僕には、福島で農業を営んでいた祖父がいます。祖父は、農作物を作る事が大好きで、お米・チェリートマト・たらの芽・白菜・さやいんげん・大根・長ネギ等、兼業農家なのに専業農家のように本当にたくさんの作物を作っていました。遊びに行くといつも、「いっぱい持ってけ。」

と、車いっぱいにお土産をもらって帰って来ていました。

祖父が作っていたお米は、タカネミノリという寒い所でも育つように品種改良されたものです。仙台では売っていないのですが、とても美味しいお米で、僕は小さい頃からタカネミノリを食べていました。

しかし、祖父がお米を作れなくなる出来事が起こりました。東日本大震災が起きたのです。祖父の家は福島県の川俣町山木屋地区にあります。計画的非難区域に指定されたため農業を続けるどころか、住む事が出来なくなり仮設住宅へ引っ越しをしなければならなくなったのです。あんなに大好きだった米作りが出来なくなってしまう、祖父がどんな思いでいるのか僕は、

「じいちゃん大丈夫かなあ。」

と、とても心配になりました。

僕は、東日本大震災の後何度か福島の実家に行きました。日中少しの時間であれば、立ち入りが許可されていました。お米を作っていた田んぼだった場所には、除染作業で出た土を入れた黒い袋が数え切れない程置いてありました。僕が知っていた故郷の風景がすっかり変わっていて、愕然としました。

「もうこの場所では、お米を作れなくなってしまったんだ。」

と思い知らされたように感じました。

祖父が、

「お米を買った事なんてなかったよ。こんな事になるなんて………。」

と寂しそうに話しているのを覚えています。みんなで田植えや稲刈りをした事や祖父の気持ちを考えると、とても悲しくなりました。

震災の時は、ライフラインが止まってしまい、ご飯を食べたくても食べられない日が続きました。そんな時、祖母が僕にチャーハンを作ってくれたのです。久しぶりに食べた温かいチャーハンのあまりの美味しさに、僕は泣いてしまいました。そんな僕を見て祖母は、

「腹減ったか？　たくさん食べるんだよ。」

と笑顔で言ってくれました。

僕は、温かいご飯を食べるのは当たり前だと思っていました。でも今回の震災で、それは当たり前ではなく、ありがたいんだという事に気付かされました。あの日のチャーハンの味は今でも忘れられません。

今は、食べたい時に、お米を食べる事が出来ます。パンも食べますが、やっぱりお米を食べると元気も出るし、何よりも満足感が違うと思います。

今は、祖父が作ったお米を食べる事はもう出来なくなりましたが、みんなで稲刈りをして食べた新米のあの美味しさは今でも覚えています。震災での経験から、僕は祖父のお米への思いを知る事ができたのとともに、お米の大切さも教わったような気がしました。

これからは、お米を食べられる幸せ・ありがたさ、そして作ってくれた農家の方への感謝の気持ちを忘れずに、ご飯をたくさん食べていきたいと思います。